

# 広島県の地震

2025（令和7）年9月

## 目次

広島県及びその周辺の地震活動…………… 1

震央分布図・断面図と地震概況

広島県における震度1以上の地震…………… 2

震度一覧表と震度分布図

地震メモ 第250回…………… 3

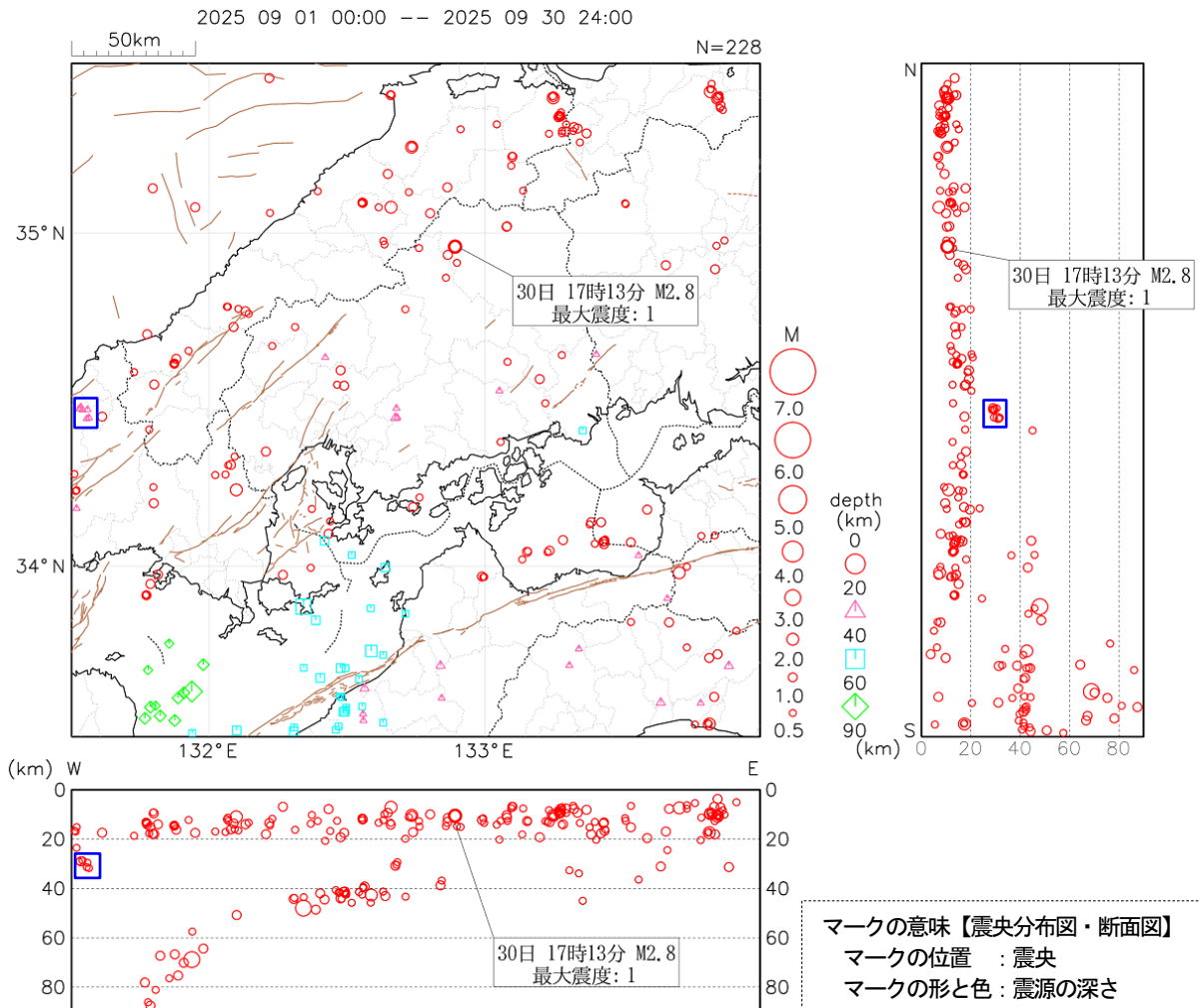
11月5日は「津波防災の日」・「世界津波の日」

広島地方気象台

# 広島県及びその周辺の地震活動

【震央分布図・断面図】

2025 年 9 月 1 日～9 月 30 日



左上：震央分布図 右上：南北断面図 左下：東西断面図

- ※ 震央分布図とは、震源直上の地表面での位置を表示した図です（震源とは地球内部で岩石破壊が始まった地点で、一般的には深さがあります）。
- ※ 図中の茶線は地震調査研究推進本部 による活断層を表しています。
- ※ 図の右上の” N ” は図の範囲内における地震の回数です。

## 【地震概況】

この期間、広島県内で震度1以上を観測した地震は1回でした（先月は3回）。

30日17時13分 広島県北部の地震（深さ11km、M2.8）により、広島県庄原市で震度1を観測しました。

なお、山口県北部の深さ25kmから30km程度（震央分布図・断面図青枠内）では、2025年2月から微小な地震活動が見られていますが、9月以降、地震回数は減少しています。地震活動の詳細については、気象庁 HP「令和7年9月の地震活動及び火山活動について」及び地震調査研究推進本部 HP「2025年9月の地震活動の評価」を参照願います。

- ・気象庁 <https://www.jma.go.jp/jma/press/2510/08c/2509kinki-chu-shikoku.pdf>
- ・地震調査研究推進本部 [https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2025/2025\\_09.pdf](https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2025/2025_09.pdf)

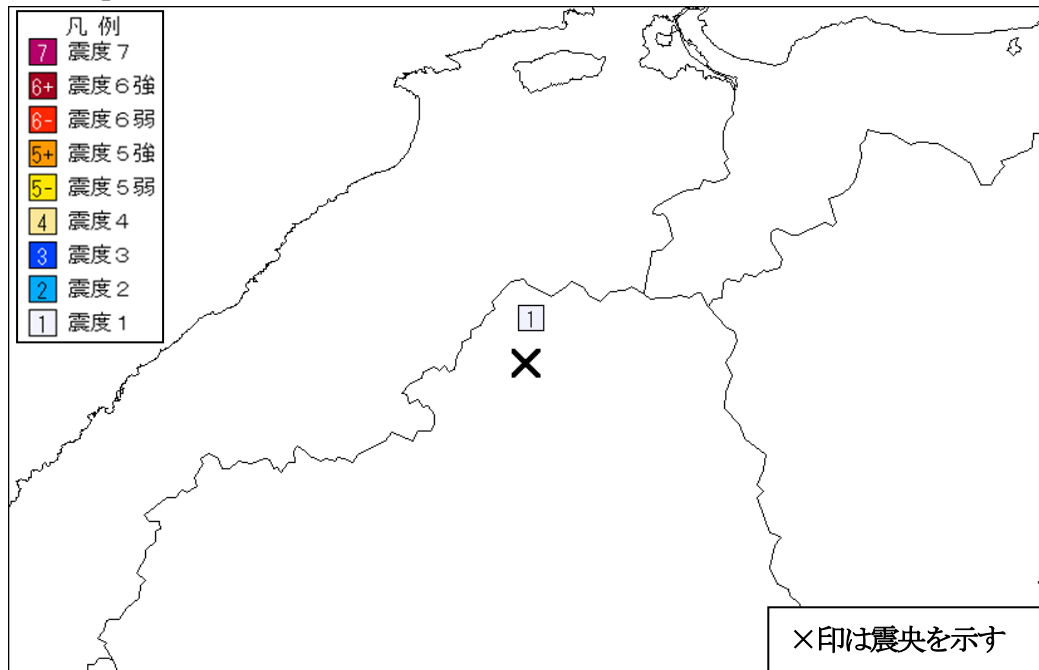
## 広島県における震度 1 以上の地震

### 【震度一覧表】

| 発震時刻（年月日時分）       | 震央地名  | 緯度          | 経度           | 深さ   | M    |
|-------------------|-------|-------------|--------------|------|------|
| 広島県内の各地の震度        |       |             |              |      |      |
| 2025年09月30日17時13分 | 広島県北部 | 34° 57.5' N | 132° 53.5' E | 11km | M2.8 |
| ———— 地点震度 ————    |       |             |              |      |      |
| 広島県 震度 1：庄原市高野町＊  |       |             |              |      |      |

注）震度の地名に＊印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

### 【震度分布図】



2025 年 9 月 30 日 17 時 13 分 広島県北部の地震の観測点震度分布図

## 地震メモ 11月5日は「津波防災の日」・「世界津波の日」 第250回

平成23年（2011年）の東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸を襲った津波によって多くの人命が失われました。これを受けて、平成23年（2011年）6月に津波から国民の生命を守ることを目的に「津波対策の推進に関する法律」が制定され、その中で毎年11月5日が「津波防災の日」と決められています。また、平成27年（2015年）12月の国連総会で日本をはじめ世界142か国が共に提案し、11月5日が「世界津波の日」と制定されました。

この日は安政元年（1854年）の安政南海地震で和歌山県を津波が襲った際の「稲むらの火」の逸話にちなんでいます。「稲むらの火」は、濱口梧陵が安政南海地震発生後の暗闇の中、津波から逃げ遅れた人たちを、稲に火を付けて高台に導き救った実話をヒントに、島根県ゆかりの文学者でありNHKの連続テレビ小説「ばけばけ」の主人公の夫のモデルである小泉八雲ことラフカディオ・ハーンが著した「A Living God（生き神様）」を、中井常蔵が小学生にも分かる短い作品としたもので、不朽の防災教材として今も語り継がれています。

この日を中心に津波対策について国民の理解と関心を高めるため、全国各地で防災訓練やシンポジウム等が開催されています。いつ起こるか分からない地震や津波から命を守るために何が必要かをあらためて考え、行動する日にしましょう。

### （参考ホームページ）

○気象庁ホームページ「津波から身を守るために」

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/tsunami\\_bosai/index.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/tsunami_bosai/index.html)

○内閣府ホームページ「津波防災特設サイト」

<https://tsunamibousai.jp/>

○「稲むらの火」について

・稲むらの火の館ホームページ

<https://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

・気象庁ホームページ「稲むらの火」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami/inamura/p5.html>

### 11月5日（水）緊急地震速報の訓練を行います ～自分の命を守るためにご参加ください～

地震による揺れから身を守ることが、地震・津波防災の第一歩です。緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでのごく短時間に、慌てずに身を守るなど適切な行動をとるためには、訓練を通して実際に行動しておくことが重要です。このため、緊急地震速報を見聞きした際の行動を確認するための全国的な訓練を、内閣府、消防庁及び気象庁は、平成20年度より年2回、国の機関や地方公共団体のほか、学校、民間企業等や個人にも幅広く呼びかけて実施しています。

今年度2回目の訓練は、「津波防災の日」・「世界津波の日」の取組の一環として、**令和7年11月5日（水）に実施**します。訓練の詳細は下記URLをご確認ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/eew/kunren/2025/kunren.html>

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先

〒730 - 0012

広島市中区上八丁堀 6 - 30 広島合同庁舎 4 号館 14 階

広島地方気象台 防災管理官室 TEL : 082 - 223 - 3953